

スズテック

環境配慮型の暖房機

農業ハウス向け
燃料費も削減
水蒸気を活用

農業機械メーカーのスズテック(宇都宮市、鈴木康夫社長)は18日、電気と水蒸気を活用した環境配慮型の農業ハウス向け暖房機の開発に乗り出すと発表した。重油や灯油など化石燃料の利用を抑え、二酸化炭素(CO₂)の排出やコストの削減効果を訴え、農業分野以外の拡販を目指す。事業所の電力使用量を随時把握できるシステムの販売

にも参入。環境商材を新たな事業の柱に育てる。暖房機は500〜800度の電熱ヒーターで水蒸気を熱した「過熱水蒸気」で室内を暖める仕組み。開発では宇都宮大学と協力。県「とちぎ未来チャレンジファンド」の支援も受け、600万円を投じる。

すでに試作機での実験も進めており、従来の暖房機に比べ燃料の使用量を8割、コストで4割削減できた例もあるという。作物への影響の検証や小型化などを進め、2011年冬にも発売する。価格は80万円台前半を予定。3年累計で2千台の販売を目指す。

電線を通信回線に使うデータを集積し電力使用量を随時監視するシステム「エコワイズ」の販売も始めた。自社導入で電気代削減効果が出たの

を機に開発元のアンシブル(宇都宮市、志水清子社長)と提携。環境商材として拡販する。

スズテックは4月に環境営業部を新設。18日の記者会見で鈴木社長は「従来は田植えの春向け商材に売り上げが集中する構造だったが、事業の幅を広げて経営安定につなげたい」と強調した。

2010/8/18
プレス発表
15:00~
於、(株)スズテック
会議室